

WAMI Hiroki

ARCHIVES 65

Shimane University
1060 Nishikawatsu Matsue-Shi



目次

- | | | |
|----------------------|-----|----------------------|
| 序 | 17. | 世界の遺産、島根の伝統・文化・自然と建築 |
| 1. テールライター | 18. | 少年野球の心得 |
| 2. Only One | 19. | 研究・技術開発マネジメント |
| 3. 神話・たたら・鍍絵 | 20. | 建築学会における最後の仕事 |
| 4. シャブコンをなくそう | 21. | 甚だ迷惑である |
| 5. 循環型社会とコンクリート | 22. | 危険を回避できるコンクリートポンプ |
| 6. 自然環境ポテンシャル | 23. | 学術・技術を先導する友朋会 |
| 7. 学生と共に学ぶ | 24. | 鹿島の技術を担うしごき会 |
| 8. 私のコンクリート用教材 | 25. | 社長、美味しいお酒を |
| 9. コンクリートを美しく老いさせる | 26. | 宇宙人 |
| 10. 世界標準から局地標準へ | 27. | 生コンのグレード |
| 11. 私の高強度コンクリート | 28. | 生コンの BCS 規格 |
| 12. 鹿島における研究開発プロジェクト | 29. | 教授の業績 |
| 13. 建築新生産システム | 30. | 私の履歴書 |
| 14. 資源循環プロジェクトチーム | | |
| 15. 生コン育ての親 | | |
| 16. 隠岐の生コン | | |

【総ページ数 79】

島根大学の定年退職にあたって「私のアーカイブ」

序

私は、これまでわがままな人生を過ごしてきた。少年時代はその典型で、かなり思い通りに振舞い多くの人に迷惑をかけたらしい。親父は山林山師を生業としていたから浮き沈みが大きく、私の少年時代は極貧の状態であった。それでも親父は無口で威厳を保ち怖い存在であったから、私の相談相手はもっぱらお袋で、亡くなる直前まで私の行動を心配してくれた。3人の兄や姉は私の良い指導者であり支援者で、そして妹とはお袋の奪い合いで頻りに喧嘩をした。私の少年時代については自分自身ではかなり逸材であったと思っているけど、今になってもそれについてとやかく言うやつがいて甚だ迷惑している。しかし、私の少年時代に関する信頼できる資料が残っていないのでいまさら弁解する気はない。私の少年時代の信頼できる記録は、島根大学の定年退職にあたってまとめたこの「私のアーカイブ」の序のみである。

私が島根大学総合理工学部の教授に着任したのは2003年4月である。松井秀喜は、この年にニューヨークヤンキースに入団した。彼は、またもこのタイミングにエンジェルズに移籍した。私も苦小牧東高校時代は野球づけの毎日で、職業として野球をやりたいとの思いから北炭夕張の野球部に就職することにした。しかし、国の国内炭切捨て政策の先鞭を受けて炭鉱不況が深刻となり野球部も解散に追い込まれた。これが、私の人生の転機であった。

私は、これまで多くの人との出会いがあった。小学時代は、福井県から着任した吉田賞一先生に放課後にたびたび算数の個人指導を受けた。中学時代は、川村二郎先生に試験中に解答が間違っていることを無言で指摘され、それが後の学力を高めるきっかけになった。これらのことは、現在の社会では全く許容されないことである。北炭夕張野球部を首になった後には、苦小牧東高校野球部の監督であった辻幸雄先生のご尽力で大昭和製紙の野球部に行くよう進められたが、種々の複雑な心境の中で野球に対する執着が急激に薄れてしまい、お断りして大学に進学することを決心した。学力は中学卒業から停止状態であったから、代々木の予備校に通って学力増進に努めた。当然、兄姉の全面的な支援を受けなければならなかった。

大学では、寄宿こそしなかったが大学院修士修了まで日本大学理工学部の松井嘉孝教授のお世話で書生まがいの生活をさせていただくことができた。そんなことで、頻りに松井先生のお宅に伺うことがあった。先生には私と同年の娘さんをはじめとして3人の娘さんがいたけれど、私には奥様の美味しい料理で食欲を満たしてもらうことのほうが優先順位が高かった。先生の研究室のお手伝いをすることで多くの先輩とも出会うこともできた。松井先生は昼夜ともお忙しくしておられたから、学問はもっぱら笠井芳夫先生（日本大学名誉教授）に教わった。鹿島の技術研究所に入ることができたのも、先輩で当時同技術研究所に勤めておられた依田彰彦先生（足利工業大学名誉教授）の紹介によるものである。

依田先生とは 2 年間で喧嘩別れしたけれど、昨年お亡くなりになられたのもう弁解することも感謝することもできなくなった。岸谷孝一先生（東京大学名誉教授）には、学位論文のご指導と審査をしていただいた。その後「自宅の換気扇が回らなくなったから修理してほしい」との連絡を受けたがその 1 週間後にお亡くなりになってしまった。換気扇を修理してあげられなかったことが心残りである。

鹿島の技術研究所では 33 年間にわたって馬車馬のように働いた。研究所では亀田泰弘所長のご指導で主にコンクリートを主体とする施工の研究に従事した。そのおかげで多くの現場所長からお声をかけていただき絶大なる支援をいただいた。私の博士論文は、それらの現場で得られたデータを束ねたものである。鹿島では、素晴らしい研究環境を与えていただきかなり自由に研究をすることができた。鹿島のマネジメントセミナー（KMS）の仲間で鹿島の経営を担っている方々とも今も何かと理由をつけて懇親を深めている。このようなことから、高校の先輩である福士勲氏（元日本住宅公団研究所）の絶大なるご支援を得て若くして学会に華々しくデビューすることができた。友澤史紀先生（東京大学名誉教授）を中心とする友朋会の幹事団として学術・技術においても学会を先導してきた。また、約 25 年間にわたって通産省・経済産業省の住宅プロジェクトにも参画できた。鹿島での最後の仕事となった経済産業省の「資源循環型住宅開発プロジェクト」では研究開発委員長を務め参加企業の取りまとめを行うとともに、技術研究所内に大橋欣治所長直轄の特別グループをつくっていただいた。私は目標管理や成果主義などの一律の管理状態におかれることが嫌いであったから、かなり快適に研究をすることができた。

島根大学に着任して、こんなに勉強したのは人生で初めてである。90 分の講義が半年で 15 回もあるので、1 回の講義資料を準備するのに 1 週間しか猶予がない、それが専門以外の科目を含め週 4 コマほどあるから、着任当初は自転車操業であった。世間では今の学生の学力低下とか政治や社会に対して無関心であることをよく言うけれど、島根大学に来て学生と接してそれは全くの間違いであることを認識した。学生は、戦後復興時の一律の教育を受けた私と違って、多様な個性を持っている。読み・書き・そろばんの時代とは全く異なるのである。私はこの 3 月で 7 回目の卒業生を送り出すが、いろいろな場面で学生の個々の才能を発見することができた。G パンを腰骨より下げていきがる男子学生の卒業論文とその発表の素晴らしさは絶対に忘れることができない。庭師になりたいというトランペットを吹く女子学生、大工になった髭の男子学生、コンクリートが大好きな女子学生、その中でプロ顔負けの歌唱力で「川のながれのように」を歌う女子学生、漆喰で泣いた多くの女子学生、合宿で淡々と食事の準備をする肝玉女子学生、私の PC の面倒を見てくれた男子学生、私の推薦をおもいきり裏切った男子学生、8 年間で卒業させてあげられなかった男子学生、そして私の研究室に来て別れを惜しむ 1 人の女子学生など多様な学生に出会うことができた。私がこれまでに忘れていたことを顕在化させてくれた全ての学生に感謝したい。また、私を採用するに当たって、ご苦労されこのような多様な学生との出会いの機会を与えてくれた当時学科長であった中尾哲也教授をはじめ材料プロセス学科の全ての

教員・職員に感謝する。長野和雄先生には公私にわたってお世話になった。女子学生に人気があったので多少の嫉妬をいただくこともあったけど、今度は全ての学生が女子学生の奈良女子大学に移られることとなりもうあきらめの心境である。

このアーカイブは、いろいろな場面で雑誌、講演、新聞などで私の思いを公表してきたことに多少の情報を追加して、収録したものである。苦小牧は、私が生まれ人生の骨格を形成してくれたところである。調布は私の人生のほとんどを主体的に費やしたところである。松江は、学生と一緒に学び私を本物の 1 級建築士に近づけてくれたところである。その間、小学生の時の十勝沖地震、日本坂トンネル火災事故、全日空のハイジャック事件そして松江での交通事故など大事故にも遭遇した。今になってもその恐怖から逃れることができない。このアーカイブをまとめようとしたのはその影響かもしれない。

この年になってようやく社会性や本物の技術が身に付いたような気がするけれど、私にはあとわずかしが時間が残されていない。一日・一刻を大切に過ごしたいから、最近めっきり早起きにもなった。

家族にはこれまで優雅な生活をさせてあげられなかったので、残された時間を若い人のお邪魔にならないところで家族と優雅に暮らしたい。

私は松江が大好きになってしまった。松江は私に沢山のいい思い出をつくってくれた。だから、私は島根の今後の発展のために残された時間を費やしたい。

最後に、私の留守の間に 2 人の息子を立派に社会に送り出してくれた妻和子に感謝する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ありがとう！

今後も「謙虚・誠実・勇気」でありたい。



2010年3月
和美廣喜